令和８年度第２回　土木建築部公共事業評価検討部会　対象事業総括表

【再評価】土木建築部

（単位：百万円）

番号	事業課名	事業区分	事　業　名	路線・河川・港・地区名等	場　　所	再評価基準	採択年度	完成年度			事業費			増減率	B／C		令和８年度まで			令和９年度以降		事業計画概要	対応方針（案）
								当初	前回	今回	当初	前回	今回	（今回/前回）	前回	今回	年	事業費	進捗率	年	事業費		
(1)	道路建設課	交付金	道路改築事業	（主）緒方朝地線 上尾塚工区	豊後大野市朝地町上尾塚	大幅な計画変更	平成２２年度(2010)	令和８年度(2026)	令和１０年度(2028)	令和１３年度(2031)	800	1,450	1,870	1.29	0.2	0.2	17年	1,038	56%	5年	832	延長　L=1,230m 幅員　W=5.5（7.0）m	事業継続

再評価書

様式２－１

事業の概要

事業名・路線河川港地区名等	道路改築事業　・　主要地方道緒方朝地線（オガタ アサジ セン）
所在地・工区名	豊後大野市朝地町上尾塚（ブンゴオオノシアサジマチカミオツカ）　（上尾塚工区）（カミオツカ）
事業の目的	・線形不良、幅員狭小箇所の解消による安全な体系の確保を図り、重要物流道路の代替路・補完路として道路ネットワークのリダンダンシーの向上、緊急輸送道路としてのアクセス向上、また、周辺観光施設へのアクセス向上を目的とする
再評価基準	・大分県公共事業評価実施要領　第2条（2） オ（社会経済情勢の急激な変化等により、再評価を実施する必要が生じた事業） ・土木建築部公共事業再評価実施要領　第3条（5）ウ（大幅な計画変更が予想される事業）
未着工・未完了の理由	令和2年度に用地を全て取得。現在、改良工事、法面工事に着工しており、追加で発生した法面設計及び基準変更に伴うトンネル修正設計が生じたため現在未完了であり、令和１３年度での事業完了を目指している。
事業採択年度	採択年度：　平成21年度（2009年度）　／　着工年度：平成22年度（2010年度）
事業実施予定期間	前回：　平成22年度～令和10年度（2010年度～2028年度）　今回：　平成22年度～令和13年度（2010年度～2031年度）

全体事業概要

計画概要

【延長・幅員】　L＝1，230m（拡幅）、W＝5.5（7.0）m

【構造規格】　第3種第4級、設計速度V＝40km／h、計画交通量1,656台／日（令和22年度）

【重要構造物】　（仮称）新小野トンネル　L＝79m

	当初計画（平成21年度）（2009年		第1回評価（令和1年度）（2019年度）		第2回評価（令和5年度）（2023年度）		今回(第3回)評価（令和8年度）（2026年度）	
計画期間	平成22年度～平成27年度		平成22年度～令和8年度 2010年度～2026年度		平成22年度～令和10年度		平成22年度～令和13年度	
工種	数量	金額（百万円）	数量	金額（百万円）	数量	金額（百万円）	数量	金額（百万円）
道路工	1200m	313	完成年度の延長		1230m	971	1230m	1173
トンネル工	79m	300			79m	360	79m	508
用地補償費	1式	63			1式	25	1式	25
測量試験費	1式	124			1式	94	1式	164
計		800		800		1,450		1,870

変更内容・理由

・事業費の増額
①地質変化に伴う法面工の増額（法面設計、法面対策工の追加）
②トンネル路肩幅の見直しに伴う増額
③物価上昇による増額
・事業期間の延伸
①切土法面対策の追加実施による延伸

事業費の推移

事業進捗の状況

令和7年度末の事業進捗率は50%（事業費ベース）となっている。
用地はすべて買収済。
トンネル工事発注へ向け準備中。

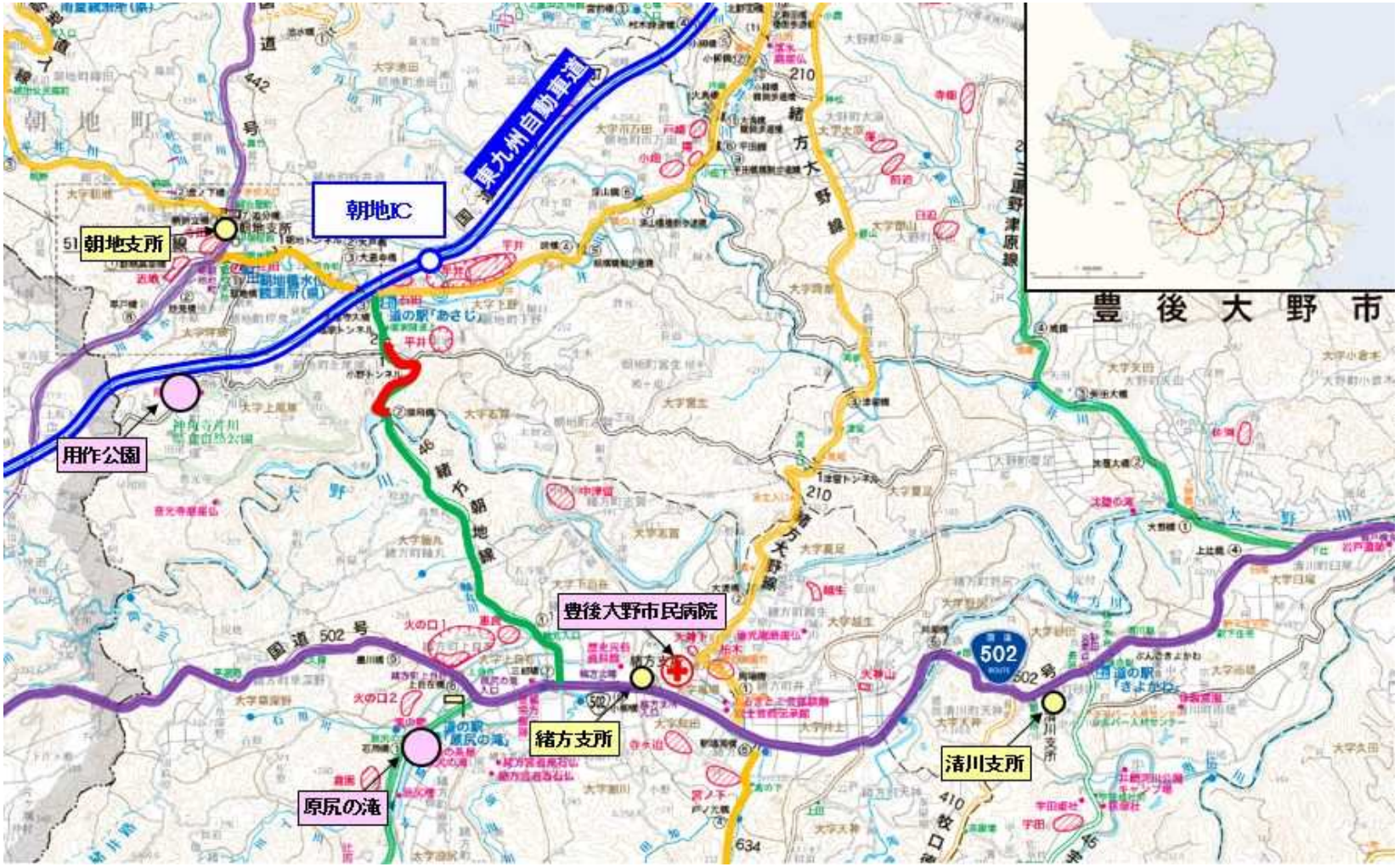
事業年度	年度事業費	累計事業費	工　種	進捗率%	進捗率%	摘要
全体（当初）	1,870	単位：百万円				
令和 2年度まで（2020年度まで）	488	488	設計・用地測量・用地補償 道路改良工	26%	26%	
令和 3年度（2021年度）	135	623	道路改良工	33%	33%	
令和 4年度（2022年度）	58	681	道路改良工	36%	36%	
令和 5年度（2023年度）	37	718	道路改良工	38%	38%	
令和 6年度（2024年度）	88	806	道路改良工	43%	43%	
令和 7年度（2025年度）	123	928	道路改良工、法面設計	50%	50%	
令和 8年度（2026年度）	110	1,038	道路改良工、トンネル修正設計	56%	56%	
令和 9年度（2027年度）	103	1,141	道路改良工、トンネル修正設計	61%	61%	
令和10年度以降（2028年度以降）	729	1,870	道路改良工、トンネル工	100%	100%	

再評価書

様式2－2

事業環境の変化	道路状況の変化 （社会・経済情勢の変化）	◆前回(R5)再評価時から大幅な変化はない。 ・中九州横断道路にて、朝地IC～竹田ICの間が開通（H31）。 ・重要物流道路の代替・補完路に位置づけられており、道路啓開などの観点から重要な路線である。 ・市内で唯一の2次救急医療機関である『豊後大野市民病院』から3次救急医療機関（大分市）へ転送時に最短ルートとして利用される。 ・豊後大野市の南部を横断する国道502号と北部を横断する国道57号(中九州横断道路)とを連絡する道路であり、両国道の事故発生時等には迂回路として機能する。 ・中九州横断道路『朝地IC』へのアクセス道路。
	地元情勢の変化	◆前回評価時から大幅な変更はない。 ・地元自治体、地域からの要望も強く、事業実施への理解、協力は得られている(用地買収完了済み) H21～R8 豊後大野市長 → 県議会（土木建築委員会） 要望書提出
事業の必要性	必要性・緊急性	◆前回評価時から変更はない。 〇現状の課題 ・線形不良・幅員狭小（最小半径R：15m） ・既設トンネル付近において、大型車両がすれ違い通行困難（幅員狭小:5m） 〇整備の必要性 ・線形不良、幅員狭小箇所の解消 ・市内で唯一の2次救急医療機関である『豊後大野市民病院』から3次救急医療機関（大分市）へ転送時に最短ルートとして利用 ・観光施設（原尻の滝、用作公園等）への観光ルートとしての利用を期待
	整備効果	◆前回評価時から変更はない。 ・走行性・安全性の向上（線形不良・幅員狭小の改善） ・道路ネットワークにおけるリダンダンシー向上 ・豊後大野市民病院と大分市中心部へのアクセス向上 ・観光施設（原尻の滝、用作公園等）へのアクセス向上
事業手法・工法の妥当性	費用便益分析	費用便益比（B/C）
		当初（平成21年度）評価時（2009年度）：1.0 前回（令和5年度評価）評価時（2023年度）：0.2 今回（令和8年度）再評価時（2026年度）：0.2
		費用便益の分析： 当初：総費用C=642百万円、総便益B=657百万円⇒B/C=1.0 前回：総費用C=1,889百万円、総便益B=335百万円⇒B/C=0.2 今回：総費用C=2,203百万円、総便益B=362百万円⇒B/C=0.2（残事業B/C=0.4）
	工法の妥当性	◆前回評価時から変更はない。 ・第3種4級とし、道路構造令に準拠した設計としている。 ・新規事業採択時に猿飛橋架け替えを伴うバイパス案等の複数案と比較して今回のルート案を採用している。
	コスト縮減	◆前回評価時から変更はない。 ・新規事業採択時に猿飛橋架け替えを伴うバイパス案等の複数案と比較して経済的となるルート案を採用することで、コスト縮減を図っている。 ・コンクリート・砕石は再生資材を利用
	環境等への配慮	◆前回評価時から変更はない。 ・現道を積極的に活用し、大規模な地形改変がない計画を採用している。 ・住家が近接する区間があるため、必要に応じて低騒音・低振動の施工機械を使用。 ・建設発生土は他の公共事業等への流用を予定
事業実施環境	事業の実効性	◆前回評価時から変更はない。 ・地元の事業実施に対する要望も強く、事業実施への理解、協力は得られている。 ・100%の用地取得が完了している。
	事業の成立性	◆前回評価時から変更はない。 ・道路法第十五条に基づき、道路管理者として、安全かつ円滑な交通を確保する構造とするべく事業実施している。 ・上位計画である、「安心・元気・未来創造ビジョン2024」、「おおいた土木未来プラン2024」、「大分県長期道路整備計画『おおいたの道構想2024』に基づき事業実施している。
	事業の特殊性	◆前回評価時から大幅な変更はない。 ・現道拡幅による一般的な工法での施工が可能である。
対応方針	対応方針案	・継続
	理由	・地元からの要望は強く、事業実施により自動車の走行性改善、産業活動・観光振興の支援、安全性向上、防災対策等の効果が得られることから、事業継続としたい。

事 業 箇 所 位 置 図


東九州自動車道
朝地IC
朝地支所
用作公園
豊後大野市民病院
緒方支所
清川支所
原尻の滝
豊後大野市
国道502号
502
442
210
410
634